

1月末に調査した2009年2月の「消費意欲指数」の結果がまとまりました。  
2009年2月の消費意欲は、先月から4.1ポイント減少し、  
**47.5点**でした。

昨年12月から3ヶ月連続で当月の最低値を記録し、調査開始以降の最低値に。

■ 「消費意欲指数」は、月別の消費の先行指標として、1993年より注目されているデータです。

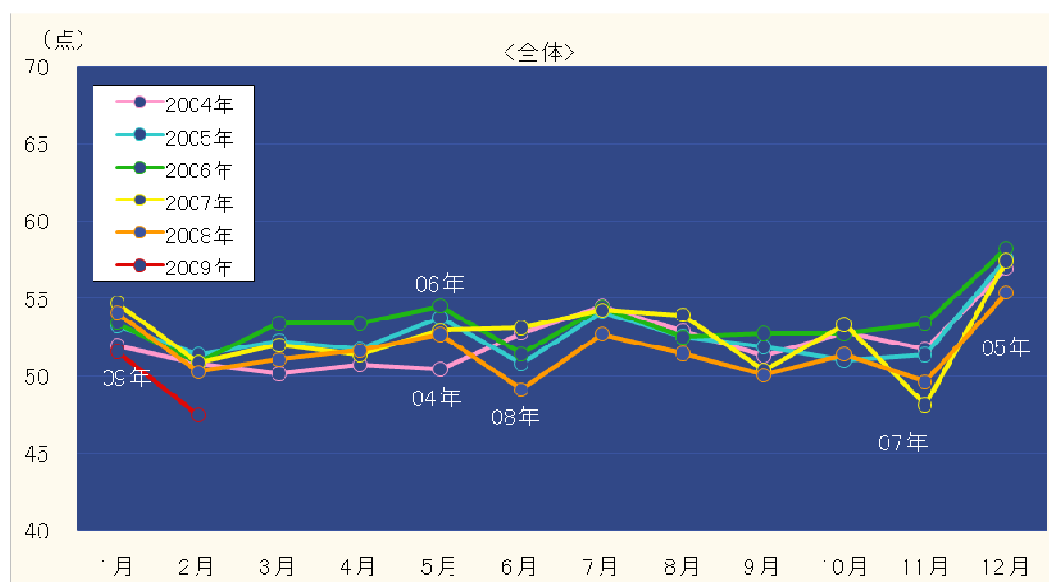
1月末時点で、博報堂生活総合研究所の調査パネルである一般生活者419名に対し「消費意欲（モノを買いたい、サービスを利用したいという欲求）が最高に高まった状態を100点とすると、あなたの2009年2月の消費意欲は何点ぐらいでしょうか？」と質問した結果が、「2月の消費意欲指数」です。

この消費意欲指数は、月別の消費を占う先行指標として、1993年4月の調査開始以来、幅広く活用して頂いています。

■ 2009年2月の消費意欲指数は先月から4.1ポイント減少し、47.5点でした。

2009年2月の消費意欲指数は先月から4.1ポイント減少、前年同月比も2.8ポイント減少して47.5点となりました。例年2月は指数が大きく落ち込みますが、この2月の数値は1993年4月の調査開始以降、月別の指数として最も低い数値です。当然2月としても過去最低となり、これで当月の過去最低値を記録するのは昨年12月から3ヶ月連続となります。

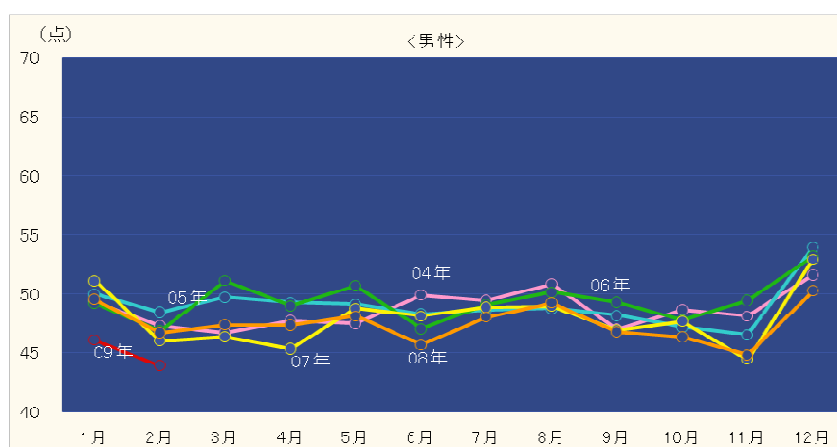
2008年12月の景気関連の指標をみると、鉱工業生産指数は過去最大の減少率、完全失業率も過去最大の悪化幅を記録、家計消費支出は10ヶ月連続で減少など、軒並み過去最悪レベルの数値を記録、政府の月例経済報告でも景気は急速に悪化しているとの判断です。また2008年10-12月期の国内総生産は第1次石油危機時以来の大幅な落ち込みとなりました。1月に入って内閣府発表の消費者態度指数が4ヶ月ぶりに上昇、街角景気もやや改善などいくつかの指標は若干好転していますが相変わらず数値は低水準です。物価の落ち着きや百貨店、スーパーの値下げキャンペーンなど生活者の節約志向を意識した動きなども出てきましたが、ここ数ヶ月の消費意欲指数の動向を見る限り生活者の生活防衛意識はますます強まっているようです。



## ■ 女性の指数は調査開始以降の最低値。男性も過去2番目の低さ。

男女別の消費意欲指数は、男性が先月比2.2ポイント減少、前年同月比2.8ポイント減少の43.9点、女性は先月比6.2ポイントの大幅減少、前年同月比2.9ポイント減少の50.9点でした。特に女性の指数の落ち込みが目立ち、調査開始以降の最低値を記録、2月としても過去最低となりました。男性も2003年2月に次いで調査開始以降2番目の低さです。

同時調査の生活力点の「モノ消費」項目をみると、男女ともに「日常的な小さな」「中くらいな」「大きな値の張る」買い物の3項目が先月比、前年同月比ともにダウンしました。パネルの声を拾ってみると、「お金がない」「とにかく節約」という切実な声や「世の中の状況を見て買う気がなくなる」「買いたいけれど我慢」など「買えない」に加えて先行き不安で「買わない」人も増えている様子がみてとれます。



※博報堂生活総合研究所のHP (<http://seikatsusoken.jp/>) では、「消費意欲指数」も含め、生活者に関する調査データにご自由にアクセスすることが可能となっております。是非一度ご覧ください。

【調査概要：生活発見パートナーズ調査】

調査地域：首都圏／調査対象者：18～74才の男女個人419人／調査方法：郵送法

本件に関するお問い合わせ

博報堂広報室 大野・西尾 (03-6441-6161)

博報堂生活総合研究所 (03-6441-6450)

